

平成29年度 タイ王国ボランティア交流研修

【第25回 国際交流タイボランティア活動】

(1) 参加者

◎リーダー、○サブリーダー、◇団 長

生徒：◎柏崎 倫(情報技術科3年)・鈴木 秋仁(機械科2年)・手塚 大樹(機械科1年)
○中村 玲音(機械科3年) ・鈴木 陽也(電子科2年)・青木 啓恵(電気電子科1年)
吉田 千裕(情報技術科3年)・菅江 涼介(機械科1年)・池澤 拓生(電気電子科1年)
引 率：◇湯澤 修一(校長) ・飯野 倫行(情報技術科)
阿部 治(社会科)・三浦 良暁(電子科)

(2) 活動期間と訪問地

① 期 間：平成29年12月3日(日)～11日(月)

② 訪問地：タイ王国 文化歴史：ペッチャブーン

アユタヤ・バンコク

修理活動：ペッチャブーン病院

企業訪問：タイコン社・日立コンプレッサー社



(3) これまでのタイ王国ボランティア交流研修

1991年 2月 創立30周年記念事業として『国際交流タイボランティア活動』がスタート

1993年 1月 車いす修理活動と車いす贈呈を開始

2015年 1月 新たなプログラムとして日系企業訪問を加える

(4) 空飛ぶ車いす

1992年 アジアの問題を考える会より提案を受け、「車いすをアジアの国々へ贈る運動」に着手。使われなくなった車いすを本校で修理し、必要とする海外へと船便で送る。

1999年 必要とする障害者施設や障害を持つ方々に、より早く役立たせてもらいたいと考え、空輸により送り届ける「空飛ぶ車いす」活動がスタート。

☆日本社会福祉弘済会支援のもと「空飛ぶ車いす」活動の取り組みは全国へと広まり、現在では全国28都道府県85校の学校と社会人グループ4団体にて取り組んでいる。

本校ではこれまで、世界22ヶ国に2,032台の車いすをプレゼント。

(5) タイ王国について



赤…国家
白…仏教
青…王室
を表す



首都：バンコク

人口：約6500万人

主要語：タイ語

時差：-2時間

通貨：バーツ Baht

国土のほぼ全域が熱帯モンスーン気候で、年間を通じて気温が高い。1年は暑季・雨季・乾季の3つのシーズンに分けられ、研修期間である12月は乾季であるため、ほとんど雨が降らず気候が安定している。

(6) 歴史文化研修

アユタヤでは、ワットヤイチャイモンコン、ワットマハタート、ワットプラシーサンペット、ウイハーンプラモンコンポピットの4つの寺院を見学した。多くの日本人はアユタヤ遺跡というところ所にとまわっているように思っているが、実際には様々な遺跡がありそれぞれに歴史や物語があることを感じることができた。

バンコクでは最古の寺院であるワットポーを訪れ、体長 46mの大寝釈迦仏を見学、併せてチャオプラヤー川を船で渡り、ワットアルンなどを見学することができた。



(7) 車いす修理活動

バンコクの北東へ約300kmに位置する、タイのスイスと呼ばれ緑豊かな地パッチャブーン。

今回はパッチャブーン病院にて、車いす修理活動を実施した。本校生2~3人でグループをつくり計4つのグループを組んだ。そこに、普段は義足など作っている病院の技師の方たちも一緒に混ざって共同で車いすの修理作業に取り組んだ。

病院には近郊から修理してもらおうための車いすが50台集められており、錆落としやタイヤ交換、ブレーキやフットレストの取り付けや調整など総合的なメンテナンスを行った。日本の車いすとは構造が異なり部品が合わないものは、溶接やドリル等を用いて本体を加工し修理を進めた。また、集められた車いすの中には損傷が激しく修理不可能な車いすや部品の足りない車いすも多くあったため、病院から許可をとり修理不可能な車いすから部品を取り修理していった。

今回、病院の技師の方たちと共に修理活動を行ったことで、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。最初はお互い言葉がわからず戸惑いながら作業していたが、徐々に言葉以外で積極的に気持ちを伝えようとすることで、気持ちが通じ合い作業効率も上がって行った。結果、3日間で29台の車いすを修理することができた。



(8) 車いす贈呈式

今回は、病院と研修団のスケジュールが合わず直接ユーザーの方にお渡しできなかったため、贈呈式前に今回持参した車いす9台が移動中に壊れていないか、タイヤの廻りやブレーキの利き具合を丁寧に調整してから、病院に車いすを贈呈した。

盛大に贈呈式を開いてくれ、日本から持参した車いすを渡すと、多くの人からお礼を言われ、直接ユーザーの方にお渡しはできなかったがこの活動の素晴らしさを改めて感じる事ができた。



(9) 交流会・文房具贈呈

入院している子供たちや、外来に来ていた子供たちにマジックショーを開催した。集まってくれた子供たちはとても楽しんでくれ、子供たちだけではなく保護者の方や病院関係者の方にも楽しんでもらうことができた。マジックショー後は、文房具セット及び折り紙をプレゼントした。子供たちはとても喜び、私たちに笑顔をプレゼントしてくれた。



(10) 日系企業訪問

グローバルな人材育成を目的としたこのプログラム。私たちは、タイコン社と日立コンプレッサー社を訪問し、工場内の見学だけではなく、タイに来た理由やタイの経済や現状、海外で働くために必要なことなど多くのことを学ぶことができた。また、日立コンプレッサー社で私たちの面倒を見てくださった中田さんは本校の卒業生だった。海外に出て働くことは珍しいことではなく、私たちの身近ですでに始まっておりこれからは、海外に出ていくことが当たり前になる可能性を感じた。



(11) 活動のまとめ

今回のタイ王国ボランティア交流研修で、コミュニケーションは、言葉やボディーランゲージだけではなく、行動の姿勢や気持ちでも取れることを感じました。病院の技師の方と一緒に車いす修理をするなかで、タイ語帳や片言の英語、ボディーランゲージで伝えようとしても上手く伝わらないときがあり、始めは互いによそよそしくなりましたが、「一台でも多くの車いすを修理したい」と強い気持ちで作業している私たちを見て、技師の方たちも私たちの気持ちに添えてくださり、いろいろなアドバイスや協力をして下さいました。作業効率も雰囲気もよくなり楽しく充実した活動を行うことができました。言葉や内容は伝わってなくても気持ちが伝って、私たちとタイの方たちの気持ちが一つになることができたからだと思います。

今回、私たちがタイで経験した貴重な体験をこれからの人生に活かすとともに、この素晴らしい活動について、本校生徒をはじめ多くの人たちに広めていきたい。



(12) 最後にご支援・ご協力いただきました多くの方々に感謝いたします

- ・ホルト サハタイ財団 (サイワルーン 氏, パンニー 氏,)
- ・タイコン インダストリアル コネクション(株)
- ・(株)日立コンプレッサー
- ・栃木西ロータリークラブ
- ・国際ソロプチミスト栃木
- ・栃木市社会福祉協議会
- ・(公財) 日本社会福祉弘済会
- ・栃木県教育委員会
- ・栃木工業高校同窓会
- ・栃木工業高校 PTA

～ 事前研修 ～

【タイ語指導】久保 哲夫 氏

【車いす修理活動および交流会】

介護老人保健施設 とちぎの郷

